



根こぶ病の遊走子を直接叩く。
病害の発生をしつかり予防、土壌中の菌密度も低減します。

根こぶ病・土壌病害用殺菌剤

「オラクル粉剤・顆粒水和剤」

オラクル粉剤・顆粒水和剤は、日産化学工業(株)が開発した「アミスルプロム」を有効成分とする殺菌剤で、キャベツ・はくさい・ブロッコリーの根こぶ病や、てんさいの黒根病、ばれいしょの粉状そうか病等に優れた防除効果を示します。本稿ではオラクルの特性についてご紹介いたします。



アブラナ科野菜の大敵「根こぶ病」

根こぶ病は、根に「こぶ」が付く病気で、アブラナ科野菜にしか感染しません。土中の菌密度がある一定レベル以上に増えると発病し、いったん発病すると被害は甚大です。

根こぶ病の病原菌は、土中では「休眠孢子」と呼ばれる耐久体の形で潜み、アブラナ科野菜の根が近づいてくるまでずっと眠って待っています。休眠孢子は根からの浸出物で目を覚まし、感染体である遊走子を放出します。遊走子は始め根毛に感染、その中で細胞分裂して増殖し、いったん根から土壌に出ます。さらに根の皮層細胞に入り込み「こぶ」を形成します。



▲根こぶ病

この「こぶ」によって維管束が圧迫、根は地上部に養分・水分を供給できなくなることから作物は萎凋・枯死してしまいます。

根こぶ病の遊走子に直接作用する

従来の殺菌剤は休眠孢子の発芽を抑制する「静菌作用」で根こぶ病の感染を防ぐと言われていました。感染を防ぐことはできませんが、土壌中の病原菌密度を減らすわけではありませんでした。

オラクルは休眠孢子の発芽には作用せず、目が覚めて放出された遊走子を直接叩きます。このため、根こぶ病をしつかり予防しながら、土壌中の菌密度を低減させることも期待できます。

総合的な防除の一助に

「休眠孢子を眠らせたままにしない」「遊走子を直接たたき」というオラクルの作用メカニズムにより、おとり作物との併用も可能と考えられるため、本剤をIPMPプロ

グラムに組み込むことにより、総合的な防除の一助になるものと期待しています。

使い方により選べる剤型

今まで粉剤を機械で散布・混和している方にはオラクル粉剤がおすすめです。薬剤を土壌全面に散布、その後深さ10〜15cm程度にロータリー混和してください。オラクル顆粒水和剤はより省力、低コストなセル苗灌注でご使用ください。所定の倍数に希釈した薬液をジョウロ等でセル苗に処理するだけ。セル苗灌注では最も重要な根圏の感染を防止するので必要な薬量が少なく、低コストで簡易に防除することができます。

さらに土壌中の菌密度が高い圃場では、セル苗灌注処理と本圃のオラクル粉剤による土壌全面散布との体系処理をお勧めします。

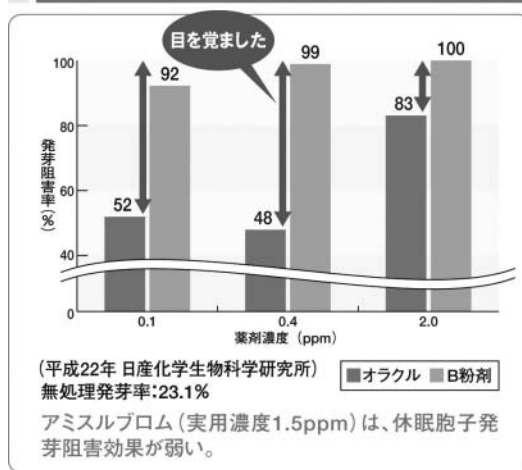
てんさいの黒根病、ばれいしょの粉状そうか病にも

オラクル顆粒水和剤は、苗床土壌灌注もしくは本圃での株元散布で黒根病に優れた効果を示します。また、ばれいしょオラクル顆粒水和剤は、植付前の全面散布後土壌混和で、粉状そうか病をしつかり予防します。

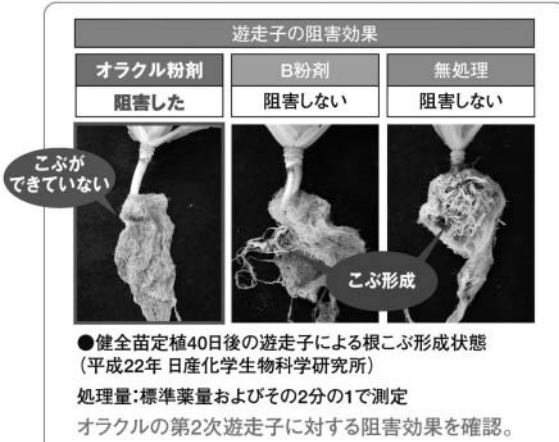
おわりに

オラクルはアブラナ科野菜、てんさい、ばれいしょの安定生産に寄与するのはもちろんのこと、その作用メカニズムから「畑の土をきれいにしたい」という農家の皆様のニーズにも応えうる薬剤であると確信しています。オラクル粉剤・顆粒水和剤、ばれいしょオラクル顆粒水和剤を今後ともご愛顧いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

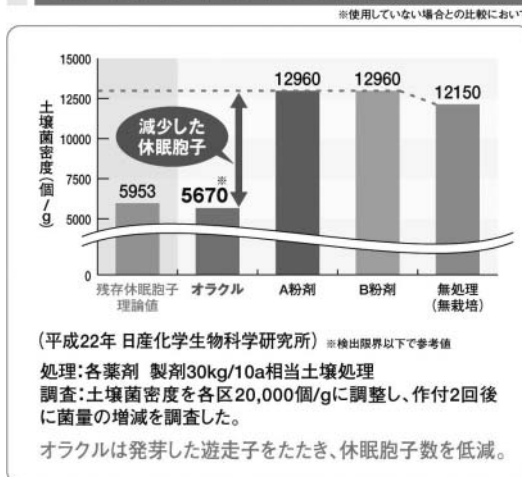
中途半端に休眠孢子を眠らせたままにしません



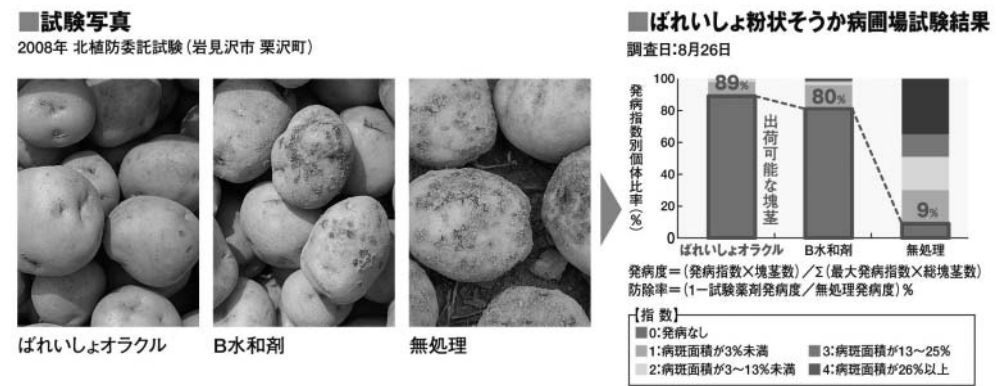
発芽した遊走子を直接たたきます



だから、土壌中の菌密度を低減します*



ばれいしょ粉状そうか病圃場試験結果



日産化学工業株式会社